

第5回いたばし魅力ある学校づくり審議会
(東京都板橋区立学校適正規模及び適正配置審議会)

議事録

開会日時 令和4年12月16日(金) 午後 1時30分
閉会日時 午後 3時30分
開会場所 板橋区役所本庁舎南館4階 災害対策室

出席審議会委員

会 長	天 笠 茂	副 会 長	小 林 福太郎
委 員	斎 尾 直 子	委 員	松 波 紀 幸
委 員	坂 本 あずまお	委 員	露 木 保 文
委 員	古 谷 茂	委 員	緑 川 有 紀
委 員	小 宮 慶 之	委 員	横 川 隆 之
委 員	木 村 縁 理	委 員	橋 本 正 彦
委 員	中 川 修 一	委 員	中 川 久 亨

出席事務局職員

事務局次長	水 野 博 史	地域教育力担当部長	湯 本 隆
教育総務課長	諸 橋 達 昭	指 導 室 長	氣 田 眞由美
新しい学校づくり課長	渡 辺 五 樹	学校配置調整担当課長	早 川 和 宏
施設整備担当副参事	伊 東 龍一郎	地域教育力推進課長	河 野 雅 彦

区内大規模校学校長(意見聴取)

金沢小学校長	飯 田 秀 男	志村第一中学校長	長 田 洋 幸
--------	---------	----------	---------

《開会》

会 長 時間になりましたので第5回いたばし魅力ある学校づくり審議会を開催いたします。本日は14名の委員の方が出席、4名の方が欠席となり審議会は成立しております。また、傍聴は現在2名でございます。

まず、第4回の審議会につきまして事務局より報告をお願いします。

【次第1 第4回審議会の報告】

学校配置調整担当課長 第4回審議会の議事録につきましては事前に内容確認を依頼させていただき、すでにHP等で公開しております。資料1が議事録、資料2が審議会における主な意見等です。それでは資料2をご覧ください。

まずは大規模化対応についてです。区内大規模校のヒアリング実施が了承され、2番、3番にありますとおり、校長のみの意見ではなく教員の意見も含めて大規模校へのヒアリングを実施してもらいたい。小学校を金沢小のみの一校とせず複数校実施した方がよいのではないかと。といった意見がありました。

本日、お越しいただいておりますのは金沢小学校と志村第一中学校、小・中学校1校ずつではございますが、事前の段階で北野小学校及び赤塚第三中学校に対しても話を伺っておりますので、必要に応じてヒアリングの中で意見として付け加えさせていただきます。

また、大規模化対応の議論の中では7番以降にありますとおり、今後の児童・生徒数を踏まえて大規模化対応を検討しなければならず、少なくとも10年先は見据えていかないといけない。将来的に減少に転じる見込みであれば、解消に向けた取組よりも学校運営上の配慮を検討するべきではないかと意見されたところであります。

資料2の最後に添付しております資料2参考資料をご覧ください。参考資料の表面には児童・生徒数の推計ということで、大きく影響のある出生数、転出入の状況等をまとめてあります。結論から申しますと、区全体の小学校の児童数に関しましては数年後には、中学校に関しましてはそれより少し遅れてピークを迎える可能性があることが見てとれます。ただし、これは区全体の数ですので、まちづくりや大規模集合住宅の建設により増加が見込まれる地域につきましてはこの限りではありません。

参考資料の上部、出生数につきましては前回答申以降これまで四千台半ばで推移していましたがコロナの影響もあってか、ここ数年減少傾向、直近では四千を切る数字となっております。また、転出入の状況ですが年齢別に見ますと年少人口と呼ばれる0歳から14歳まで、その親世代である30歳代に関しては転出超過の状況が見られ、特に0歳から4歳においてはここ数年、その数字が大きくなっている状況が確認できます。

この状況を踏まえて、資料下部にあります区人口の推移をご覧ください。区全体の人口としましては概ね増加してきました。一方、赤穂同士、平成29年と

令和4年を比較した場合、5年間ありますので、平成29年の0～4歳は令和4年の5～9歳となります。平成29年では22,338人であるのに対して令和4年の5～9歳は20,917人となっております。これは転出超過の影響によるものであると考えられます。

また、出生数が減っていることにより令和4年の0～4歳は19,382人であり、過去と比較すると減少しております。先ほど説明したとおり、転出超過の状況が続くようであれば5年後の5～9歳はさらに減ることが見込まれます。

これらの世代が小学生となるのが令和7年度あたりでございます。これまでの審議会でお示しした児童推計でもその頃から減少が見込まれております。平成31年に策定した人口ビジョンの数字とは乖離が見られますが、直近の推移等によるとそのような状況が確認できます。

なお、中・長期的な予測につきましては直近の傾向によらない部分もありますので、人口推計やまちづくりを所管する部署とも調整しながら、推計の精度を高めるよう取り組んでまいります。

また、参考資料の裏面には京都市の「京都御池中学校」の民間施設を含めた複合化の状況、横浜市における大規模化対応として「10年限定で開校された小学校」の設置経緯等を記載してございます。

それでは審議会の振り返りに戻りまして、通学区域・地域協議に関わる審議です。

通学区域につきましては多くの視点がある中でその意義や役割を再度整理するとともに優先順位を議論する必要があるといったご意見や、通学区域と地域境界との関係では、通学区域変更を検討する場合には地域に早く情報提供をすることで話がうまくいく、1校の学校に対して複数の地域や支部が関わっている場合でも時間とともに学校と地域の関係性が整理されていく可能性はあるが、1校1地域、1支部になればより密に連携を図れるといった意見がありました。

また、小学校と中学校の通学区域の整合性につきましては小学校1校の通学区域に対して3校の中学校の通学区域に跨っている状況は進学状況を踏まえて改善を図った方がよいとも議論されておりました。参考として3ページに前野小学校の進学状況をまとめております。前野小は上板橋第三中の学びのエリアであり、通学区域は上板橋第三中、志村第一中、志村第四中の3校の通学区域と交わっておりますが、志村第四中へ進学する人数は多くない状況です。今回はあくまでも例ですが、3校の中学校が交わる小学校では、このように進学状況を踏まえて交わりが2校になるよう小学校と中学校の通学区域の整合性を図ってはどうか、という意見であったと認識しております。

最後にCS委員会に関して委員のみなさまよりご意見いただくとともに小委員会へ議論を委ねる形で終了しました。

また、こちら資料はありませんが12月2日、区議会の文教児童委員会におきまして審議会の検討状況という形でご報告をさせていただきました。

委員会の中では現実的な話ではなく、夢、理想も含めて話していただきました

い、学級規模を明記しないことへの懸念や、現場の先生の意見を聞きながら議論を進めてもらいたいといったご意見、また議論の視点に特別支援教育、インクルーシブ教育の視点を取り入れていただきたいなど、意見をいただきました。いただいた意見や視点を踏まえて今後の議論に取り組んでいければと思います。

会 長 第4回審議会での主な意見等について審議会が出た質問への回答と併せて説明をいただきました。資料に記載の意見等につきまして追加や補足等がある場合にはご発言いただければと思います。

(意見等なし)

【次第2 第4回小委員会の報告について】

会 長 それでは、次第2「第4回小委員会の報告について」でございます。第4回小委員会が11月1日に行われておりますので、事務局より報告をお願いいたします。

学校配置調整担当課長 先ほど説明した前回審議会での議論や意見を踏まえて実施しました小委員会の報告です。第4回小委員会では主に3点審議をいたしました。

1点目が大規模化対応として、区内大規模校ヒアリングの実施方法の検討、整理、2点目が通学区域に関する議論の整理、3点目が地域協議の方向性について議論いたしました。

複数の論点を扱っておりますが、ここでは資料3の1ページにある1番の大規模化対応の部分について報告をさせていただき、2番の通学区域及び3番の地域協議につきましては次第4の中で説明をさせていただければと思います。

区内大規模校ヒアリング実施に至った経緯、ヒアリングの目的についてこれまでの議論を踏まえて確認させていただきます。資料3の1ページ、大規模化対応四角囲み部分に7月に実施された第2回小委員会における大規模化対応の方向性、まとめを再掲してございます。8月の第3回審議会において一旦、方向性としてこの内容で確認されておりますが、その中で大規模校の教育環境や学校運営を把握するため学校現場の意見を聞いてはどうかとの意見もあり、本日実施する運びとなりました。本日の審議会ではヒアリングを踏まえて、改めて審議会として方向性を確認するとともに、併せて大規模校への具体的な配慮事項など意見をいただければと考えております。

また、今回ヒアリングの対象を大規模校のみとしている点ですが、小規模化対応について10年前の審議会答申を踏まえた区の基本方針が確認されていること、それ以降、現在に至るまでの状況変化として一部学校の大規模化が進行していることが挙げられるからであると認識しております。

さて、前回小委員会ではどのような内容を聞いていくか、どのような議論が想

定されるかについて意見交換をしており、主な意見等の①、②にありますように教育環境は学校規模のみで決まるものではなく、小規模校・大規模校ともに良さや課題はあること、学校の教職員は自身が置かれた状況を前向きに捉えて教育の充実に取り組んでいるのではないかなどが意見されました。

また、それ以降にありますようにソフト面・ハード面で分けて課題を聞くことで配慮点を明確にできる、ソフト面では管理職や養護教諭など各校1名が基本の職に係る負担、ハード面では教室不足が課題として想定されますが、教室不足に関しては適正規模内でも課題が生じることもありますので、学校施設に見合った規模を検討することが必要ではないかという意見もありました。また、ヒアリングでは学校規模による良さや課題を客観的に聞き、良さを確認し課題の解決に向けた取り組みを議論いただきたく、次の次第3でヒアリングを実施してまいります。

副 会 長 小委員会の委員長の立場から補足をさせていただきます。

板橋区では大規模校化が進んでいる学校が存在する状況ですが、新校設置等による解消は困難であり、将来的には減少が予測される状況の中、ヒアリングにより学校現場からの話や意見を聞きながら配慮事項、対応策を検討することが必要であると考えます。

また、大規模校の良さを確認する機会にもなります。規模に応じた人員配置やハード面での対応など、これまでも意見されてきた部分と重なるかもしれませんが、ヒアリングを踏まえて改めて配慮事項等を検討し、審議会として方向性を確認していきたいと考えております。

会 長 前回の審議会では他自治体アンケート調査結果を基に大規模校のメリット・デメリットを確認いたしました。その中には板橋区の大規模校の倍ほどの学校もありました。調査結果を踏まえつつ、実際に板橋区の大規模校ではどのような課題が生じているのか、またそこまでの課題が生じていないのか、先ほど将来推計については事務局からもあったとおり、区全体としては児童・生徒数の減少が見込まれている状況もあるということです。

ではヒアリングの進行は事務局にお願いいたします。

学校配置調整担当課長 それでは区内大規模校のヒアリングを実施してまいります。

資料4をご覧ください。大規模校のヒアリングを実施するにあたり、区において教育上望ましい規模を上回る学校の学級数や児童・生徒数の実績と予測を上段の1ページ目で、本日の聞き取り内容を下段の2ページ目に記載しております。本日は金沢小学校の飯田校長、志村第一中学校の長田校長にお越しいただいておりますので、まず始めに事務局より両校の概況についてご説明いたします。

まず金沢小学校ですが近隣に複数の大規模集合住宅が建設されたことにより大規模化が進んでおり、児童が増加、令和4年度は27学級で1年生は6学級となっております。来年度入学する新1年生も6学級が見込まれており、数年後には最

大で30学級を超えることが見込まれるものの、その後減少に転じると予測しております。これまでも学級増に対して増築等を行ってきたところですが今後の学級増の対応についても学校側と協議を進めている状況がございます。

続きまして、志村第一中学校です。金沢小学校とは状況は異なり、直近で急に生徒数が増えているという訳ではありませんが、令和4年度18学級であり板橋区では赤塚第三中学校に次ぐ規模です。今回の審議会では中学校における教育上望ましい規模について12学級から15学級までとしていた前回答申から12学級から18学級までと改める方向で審議が進んでいる状況もありますので、その点も含めて話を聞くことができると考えております。

ヒアリングの進め方としましては資料4の下段に記載してありますテーマ・内容を中心に金沢小学校飯田校長、志村第一中学校長田校長の順でお話しいたします。その後、各委員より気になる部分、確認したい部分があれば質問をいただく形で進めてまいりたいと思います。では、両校の校長はこちらにお越しください。

それでは早速ですが、児童・生徒や教職員にとっての教育環境についてお話をお願いいたします。

金沢小学校長 金沢小学校校長の飯田です。本日は大規模化について率直に感じていることをお話ししたいと思います。

まず児童数及び教員数が増加すると基本的には教育活動が活性化するため、プラスの面が大きいと感じています。

各学年4学級、全体で24学級を超える規模となる場合には課題が生じてくるように感じますが、様々な状況にもよりますので必ずという訳ではありません。

児童の面からみると、子どもたちにとっては友達がたくさんいるということで生き生きしています。児童数が増加すると、いじめや不登校の数は増えますが、割合が高くなることはありません。

また、学校行事で例えば鼓笛隊でこの役をやりたいとか、学芸会等で主役をやりたいとか、数が少ない役が出来づらくなり一部の子どもが目立つ場面が少なくなるかもしれませんが、その反面なかなか勉強についていけないという子どもが目立つことがなくみんなと一緒に学べるということで、上も下も目立つことがなくみんなで本当にいい雰囲気です。育つことができることが大規模校の良さであると考えてございます。

教員の面からみると、新規採用教員が配置されたときに同じ学年に先生が4、5人いるため指導を受けやすいこと、板橋区独自の取組や学校のこれまでの取組等の情報共有ができ、今まで取り組んできたことを継続しやすいです。

また、人数が増えることによって1人あたりの校務分掌が少なくなるという良さもありますが、逆に1人任せになり伝達が難しくなるということもあります。

それから1,000人以上の児童がいますので、一人ひとりの子どもたちをなかなか覚えきれず、他校に比べると関わり方という部分で違いが出てくるかと思いますが直接マイナスに働くことではないと感じています。

志村第一中学校長

志村第一中学校校長の長田です。今年度から着任いたしました。

大規模校の良さは、生徒がいろんな友達と人間関係を作れるということです。また、いじめ等のトラブルに対して次学年に上がる時にはクラス編成でいろんな組み合わせが考えられるため、生徒にとって人間関係を作っていくうえでトラブルはあるにしても小規模校に比べて解決しやすいと思います。

また、教員については教員数が多いため年齢層等が幅広く、子どもたちや保護者の悩み事をいろんな形で支援していける良さがあります。

しかし、人数が多くなればトラブルや悩みを持った子が多くなります。できるだけ組織として対応することを考えると、別室で話を聞く、時間を置く等、担任だけではなく様々な学年の教員が複数人で対応する場合のメリットはありますが、教員の人数が多いことで学年を飛び越えての情報共有をしにくい部分があります。そこは組織構築を工夫しながら運営をしているところです。

また、一つの教科で一人の教員しかいない場合には授業方法の研修が不足することがありますが、ほとんどの教科で教員が複数名いるため、互いに教え合うことでスキルアップを図れる、人材育成の観点で大きなメリットがあると思います。

校外学習に関しては人数が多い分、集合やトイレで順番待ちをする時間が長くなる点がデメリットです。

学校配置調整担当課長

続きまして、学校運営についてお願いいたします。

金沢小学校長

学校運営の課題は1人職の負担が大きくなるということです。例えば保健室であると、1日最大で来室者数が50人を超える場合があります。金沢小学校では今年から養護教員が2名体制になり、子どもの面倒を見る教員と保護者へ連絡する教員で業務を分けることができるようになりました。

また、学校医も大変な状態で4月の検診で内科の先生は普通の学校だと1日で終わるところ、6日来なければいけない。歯科の先生も4日かかるということでした。就学時健診も今回190名でしたが時間的に厳しいという話が出ています。

また、教職員が多いことで新たな取組などの情報共有に工夫が必要になります。

学校運営の良さとして単級であるとクラス替えが全くできませんが、1学年6学級では子どもたちの状況に応じて柔軟な学級編成ができます。

また、新しく仕事が入ってきたときや新プロジェクトを立ち上げる際にも人数が多いため対応がしやすいです。一人一台端末の導入によりChrome bookで学年毎に課題を共有しているため、今回、柔軟な補教体制が求められる中で同学年の他教員が児童に課題を出すなど柔軟な体制が組んでいます。この点も一学年で教員が複数名いることの良さだと感じています。

志村第一中学校長

学校運営の課題として教員間での情報共有の難しさがあります。私が1学期に教員向けに行ったアンケートにより教員側も情報共有が課題であると認識していたため、できる限り全体の会議を減らしつつ学年間での教員の情報共有を進めら

れるように運営をしております。

具体的には毎日行っていた朝の全体会について、タブレットで連絡をするように省略し、省略して空いた時間を利用し、学年間で昨日あったことや今心配なこと、直近で必要な打ち合わせを即座にできるような体制をとっております。

また、職員会議についても各学年主任や分掌主任が出席する運営委員会の連絡事項を、学年主任や分掌主任から各教員に伝達してもらうことで職員会議もできるだけ少なく必要事項だけ連絡するよう運営をしています。

一方、学校運営の良さとして大規模校では教員も生徒数も多くなると行事が活発になり、中学校では部活動なども子どもたちが生き生きと参加できるような環境が作れると思います。

課題として先ほど申しあげました個に応じた対応を組織的に行う必要があり、その際には学習支援や別室登校において外部人材を使い対応しております。

また、副校長や養護教諭などの1人職では業務量が圧倒的に増えるため支援が求められると思います。

学校配置調整担当課長 続きまして、児童・生徒や保護者からの意見、また現場の教職員からの意見をお願いします。

金沢小学校長 子どもたちの人数が多いからといって他の学校と違うところはないという感じです。保護者からは欠席の連絡を入れた際など担任以外でも同じ学年の教員が対応してくれるので話が伝わりやすい、クラスルームへの対応の早さなどで概ね好評を得ています。

ただ、学年主任から6学級あると他の5学級への情報共有の難しさがあるとの意見があったため、1組から3組を学年主任が、4組から6組を副主任が見る形に変え、対応しております。基本的には、良い方向の意見が多いです。

人数が多くて体育館が使えないとかハードの面でのデメリットはありますが、特にマイナス面の意見は出てきていません。

志村第一中学校長 生徒、保護者からは大規模学校であることがわかった状態で入学してきていますので、それを理由に不満を持たれるということはありません。

ただ、学校の周辺の方には一斉下校するとき少し声が大きくなったり道で広がったり、ご迷惑をかけるような場面が多少はあると感じておりますが、できる限りそういったことのないように、継続的に交通ルール等を指導しています。

また、保護者の方からは行事や部活の面で活気があっていいという声も多くいただいています。

教職員からは先ほど申しあげたとおり、教職員によりよい学校づくり、働き方改革の視点でアンケートをとったところ、いろんな先輩に指導を受けられることがメリットということでした。

本校の場合、本校が1校目として配属している教員が半分近くの40%おりますので、校内で教え合える環境に教員もよさを感じています。

学校配置調整担当課長 それでは大規模校の課題、配慮事項についてソフト面、ハード面のそれぞれの面についてお願いします。

金沢小学校長 課題については2つの切り口があると思います。1つ目は学校設置時の想定最大児童数と乖離をするという課題、2つ目が大規模校化した際の課題です。

1つ目の例として、金沢小学校であれば数年前に給食室の整備をした際に想定として最大給食数 700 食ぐらいで給食室をつくっていますが実際は 1,000 食を超えており、時間的に間に合わないため時間がかかるコロッケ、春巻き、カップゼリー、グラタンは出せなくなっています。ハンバーグもなかなか出せず、メニューを絞らなければならない状況です。これは人数が多いため生じる課題というよりは設備を設置した際の想定最大数との乖離の課題だと思います。

また、単に教室数を確保するだけではなく不登校や特別支援が必要な生徒の居場所を作るためのスペース確保も必要になると考えています。

2つ目、大規模校化したときの課題の例として、4学級ぐらいまでは算数ブロックの使いまわしができますが、6学級になると使いまわせなくなるため教材教具が倍必要になります。音楽室や図工室を使った指導が5、6年生でしかできないこと、プールの指導も一遍に6学級入れない、全学年が入学式に参加できない可能性があるなど様々な課題が出てきます。本校はスペースがあり対応できていますが、体育館以外の学年全員で集合するスペースの場所が指導の際や就学時の健康診断で必要になるため、サブスペースがあることは大事だと思います。

また、190 人を超えてくると校外学習の受け入れ先がなくなってきたり、観光バスでの移動が大変であったり、雨が降った時に屋根のある食事スペースもなくなってきました。6学級で動く場合は3学級ずつのグループで動くということを意識しながらやるしかないと思います。

職員配置の面では29学級を超えると想定される来年度からは副校長が2人体制になりますので、改めて2名体制のやり方を考えています。

また、本校は数年前までは20学級程度であり、教員が中規模校の意識で動いているところがありますので大規模校の意識へ変えることも今後の大事な課題と考えています。

志村第一中学校長 ハード面では本校は現在 18 学級ありますが学年毎の空き教室、多目的教室はありません。

最初に学校をつくった段階で18学級を最大想定としていたため生徒がこれ以上増えた場合、ハード面での影響が出てくると思います。現在の18学級では大きな問題はありますが、空き教室がないということで柔軟に学習ができる環境を作ることは難しいと感じています。

先ほども申し上げましたとおり、ソフト面では養護教諭や管理職のサポートが必要になってくると思います。また、どの学年に属すこともなく柔軟に事務作業等をお手伝いしてくれるような職員がいればありがたいと感じています。そうい

った人材の不足については地域の外部人材やCS委員会等を活用しながら地域と一緒に学校を運営していく意識が今後求められると感じています。

学校配置調整担当課長 最後にその他といたしまして、各学校から補足等ありますでしょうか。

(補足等なし)

学校配置調整担当課長 それでは委員方からご質問ご意見ある方いらっしゃいましたらお願いします。

委員 私は中学2年と小学校4年の子どもがおります。通っている小学校は3クラス掛ける6学年の18学級なので、親としてもすごく順調に学校生活を送っていると思っております。

金沢小の飯田先生に3点質問させていただきます。

1点目にクラス替えの頻度について、金沢小の方ではどのくらいしているのか、2点目に先ほど校外学習が大変とおっしゃっていましたが、サポート体制はどのようにしているのか、3点目に大規模校における新任の先生が感じている部分があれば教えていただけますでしょうか。

長田先生には、1点質問させていただきます。

校外学習について周りから聞いた話によると、クラスごとに分けて行くという話を聞きましたが、修学旅行も分けて行くのか、区の施設を使った林間学校だから別々に行くのか、その辺の体制を教えてくださいませんか。

金沢小学校長 1点目のクラス替えは毎年行っています。

2点目に校外学習ですが、実は今の6年生は3学級のため困難さを感じていません。5年生が4学級で、移動する時に多少時間がかかるという状態ですので、今後1年生の6学級が高学年に上がったときに大変になるのかと想定できますが、そのときはできることを考えてやるしかないですし、必要に応じて学校地域支援本部の方から応援いただきながらやっていければ何らかの形で対応できるかと思えます。

3点目に新任については教員数が多いため同学年の教員に限らず、自分が聞きやすい教員に指導を受けることができるため教員の人数が多いというのは良い影響が出るのかなと思います。

志村第一中学校長 中学校での校外学習についてですが、本年度は7年生の八ヶ岳荘を使った移動教室を3クラスずつ2つに分けて行いました。これはコロナ対策で一つの部屋に入る人数の制限に収まらないための対応であり、できれば1つにまとまっていたと考えております。

修学旅行は京都、奈良へ6学級すべて一緒に行きました。来年度もそのような形で運営していく予定です。

委員 実際の不登校の数とそういった子どもに対応するためのスペースをどのように対応しているのか聞きたいです。

また、金沢小学校ですが 1,000 人近くなってくると、いろいろなフォローが大変だなと思いますが、どのように考えているか教えてください。

金沢小学校長 不登校数ですが、出現率としては変わらないと思います。

現在、完全に学校に来られないお子さんが 4 名、欠席日数が年間 30 日を超えるお子さんはそこそこいます。どこの学校も同じだと思いますが、各担任がきちっと声をかけていけるよう取り組んでいます。他の子どもが来る前だけ来て帰る児童、帰った後だけ来る児童がいたりしますが、そういった子に対しては逆に校務分掌がないので、各児童に応じてきめ細やかな対応ができる可能性があると思います。

各学校規模に応じた対応の仕方があるため、大規模、小規模のどちらかがいいということではないと思います。

志村第一中学校長 不登校数について、出現率は 4 %前後で推移しています。この 4 %というのは区と都の中学校の平均値よりも若干下です。

空きスペースを活用した不登校生徒への対応はなかなか十分とは言えませんがスペースを確保する曜日、時間を工夫しています。外部人材を活用して、その方の出勤できる予定に合わせ、特別支援教室やスクールカウンセラーなど曜日限定の教室を活用してスペース確保をしております。

委員 長田校長への質問ですが、不登校児への対応の詳細をお願いします。

志村第一中学校長 今、個別対応で適している教室は一つです。そこには週に 2 日スクールカウンセラーが入り、週に 1 日特別支援教室として利用しています。残り 2 日を不登校児への個別指導のために利用しています。この教室が少し狭く、2、3 人ぐらいまでに適した広さとなるため、それ以上の人数になった場合には新たに教室を設ける必要があるという状況です。

委員 飯田校長にお聞きしたいのですが、中根橋小学校では i C S で話し合った結果、来年からクラス替えを 2 年ごとに戻そうという話になりました。1 年生から 4 年生は特に問題はありませんが、5、6 年のときに先生との信頼関係が築けず、そのまま卒業するということがここ何年か続いたためです。

教員によって変わると言われればそれまでですが、5 年生で何かあったとしても、もう 1 年踏ん張って信頼関係を築いた上で、最後卒業式で送り出せる形がいいのではないかと i C S で話し合い、その方向に変えるということがありましたが、小学校の校長の立場から意見ををお願いします。

金沢小学校長 クラス替えについてはもちろん 2 年でクラスを作り上げるというのがあります

が、子どもたちや保護者の感覚として大規模校では毎年のクラス替えによさというの出てくると思います。学校として統一した指導するということが大事になるため、担任が誰であろうとも変わらないようにすることが大切だと思います。

また、大規模校化すると子どもたちは自分の担任と学年主任の先生の名前と顔はわかるけど、ほかの先生はわからないということもあります。先生もどうしても関わりのない子が出てきますが、毎年のクラス替えがあることで関わる児童が増えるということで、大規模校においては毎年のクラス替えに意味があると思います。

クラス替えの Spann については各学校の状況によって異なるため一概には言えませんが、大規模校の場合は毎年クラス替えをしたほうがメリットであると思います。

委員 飯田校長から体育の授業、運動会、学芸会の際の体育館や校庭の利用の対応についてお願いします。

金沢小学校長 設置時の想定最大数との乖離の問題等もありますが、幸い広い校庭のため2学級同時に体育ができ、15学級規模で外体育については問題なくできています。体育館体育は問題が出てきますが、マルチスペースという学年が動ける場所があるので、低学年がマルチスペースを利用する場合があります。700人規模で設定している学校のため体育館も比較的広く、跳び箱の数さえそろえておけば2学級でも体育ができます。

運動会については今年から1, 3, 5年と2, 4, 6年に分けて半分が見て半分が演技をするという形をとっています。子どもたちの数が半分になるため、保護者に観覧席を多く開放できます。

音楽会については全生徒で一緒にやるのではなく、例えば学年ごとで見学も一部の人という形で対応しています。

今何が必要かということを考えながら今後の大規模化に向けて検討していきます。

委員 私の子どもが通う私立中学では毎年クラス替えをしますが、基本的に学年の先生は持ち上がりです。大規模校では学年の先生はそのまま持ち上がるのか、また高学年にはベテランの先生をつけるというようなマネジメントをしているのか教えていただきたいです。

金沢小学校長 私立については異動がないため見通しが立つかと思いますが、小学校は基本的に6年間で異動するというルールがあるため、先生が持ち上がるということは難しいです。基本的に学年主任は持ち上げつつ、他の教員は全体のバランスを考えながら配置をしていきます。必ずしも2年間同じ先生が受け持つことがいいことではなくて、全体として共通理解がとれていれば学年で誰が受け持っても同じになる方が良く考えています。

子どもたちからすれば、学年主任が大きな傾向さえ掴んでおけば、誰が担任に入っても同じように指導できるという体制をとれるようにしていきたいと考えています。

志村第一中学校長 中学校でも同じように決められた人事異動があるため、それに伴って抜けた教員の代わりは誰が適しているかという部分を考えていかなければなりません。
基本的には数名は持ち上がりでいて欲しいと願ってマネジメントをしているところです。

委員 学校の建築計画の立場からご質問させていただきます。
当初の建築計画時の想定最大数と、長年経つての乖離の話がありましたが、児童生徒数、クラス数が多くなれば校舎内の教室をすべて使い切ることであります。旧来の学校教育は普通教室で一斉授業であったため、教室1つ確保すればよかったです。近年はグループ学習や少人数学習やディスカッションなどの多様な学習スタイルに対応できるスペースが必要となります。近年、新しい学校を計画・設計するときには必ず普通教室周りに大小のスペースを設けています。これらのスペースは多様な学習展開のためであり、クラス数が増えた時のバッファとして利用すべきものではないと考えています。
都市内で限られた敷地面積と、建築予算制限からどうしても児童生徒数・クラス数が増えると本来は必要となる余裕スペースを潰してしまうことがあるので、注意が必要だと思います。二つの学校とも、実は相当苦勞されているはずなのに、工夫して空間活用をできているので学級数が増えても特に問題ないと発言されますと、次の新しい学校建築に反映されなくなってしまうので、現状のハード面での問題点はなるべく多く教えていただきたいです。

金沢小学校長 本校は増設済みですが、音楽室だったところを1年生の教室にしていることで、使い勝手が悪いという声が出ています。今後の増設について検討中ですが来年から3、4年後の予定が立っていて、その先の児童数の動向を見ると減少に転じる傾向が見られます。費用対効果を考えたときにプレハブでも建てると5億円を超えるため、現状で対応できるのであれば対応したいと考えています。
現状空いているスペースで多様な学習スタイルを実現するためのスペースとして確保できないかを検討し、スペースがないからやらないということではなく、費用対効果等をトータルで考えながら最大限の効果を生むための方法を今新しい学校づくり課と相談しています。
ただ単に妥協するのではなく、より良い方策を伝えながら取り組んでいこうと考えています。

志村第一中学校長 各学年に一つの空き教室があると多様な学びが展開できると考えています。
また、不登校など個に応じた対応をするということを考えると、まとまって教室に入ったり個別で話を聞いてあげたり、子どもの状況に応じて使えるような教

室があるといいと思います。

委員 長田先生にご質問です。板橋区の場合、中学校は改築を契機に教科センター方式になっていくというスタイルなので、少しずつ教科センター方式の中学校が増えていきます。それを踏まえ、各教員は担当する科目の業務と、それ以外のクラス運営等の業務はどれぐらいの割合でしょうか。

新しい学校建築を考える際に、働く場所を全員の職員室と教科ごとのメディアセンターの教員スペースと、どのように計画していくべきか、ということのヒントにしたいと思います。

志村第一中学校長 やはり授業づくりが本務なので、そちらの業務を優先と考えます。

また、これまで職員室も学年で島を作るのが当たり前ですが、職員室も多様な形で展開できるように民間企業のような場所が決まっていないうフリーアドレスの形も今後は必要になると思います。

副会長 1点質問ですが、副校長の業務に関していかがでしょうか。

金沢小学校長 本校は主幹教諭が3名配置されているため、そのうち1名に対して副校長の業務をある程度割り振っているところがあります。もし副校長が2名体制になり、割り振っていた業務を副校長に戻せば保護者対応がよりきめ細やかにできると思います。

志村第一中学校長 大規模校では副校長の業務量は確実に増えるため、補助の職員が必要かと思います。ただ、ベテランの副校長になると自分1人でやりたいという方もおりますので、副校長にヒアリングして配置を考えていくのがベストだと思います。

副会長 ありがとうございます。ヒアリングにおいて、大規模校では指導に関してはむしろプラス面が目立つという印象を持ちました。

学校医の人数、給食の提供方法でいろいろと支援策が見えてきました。改めて意見をまとめて反映させていければと思います。

学校配置調整担当課長 副校長補佐に関して補足させていただくと、今年度板橋区では新任の校長を中心に副校長補佐を配置しています。こちらの場でも審議していただいていると思います。

では2人の校長へのヒアリングをこちらで終了させていただきます。

会長 今回のヒアリングを行ったことでいろいろな考えがでてきたと思います。

将来推計を踏まえて慎重に検討すべきということ、学校施設の拡充や必要な人的確保等の運営上の配慮を学校と協力の上検討する必要があるということでもまとめようとした原案でしたが、もはやこれでは足りえなくなってきたかと思

ます。

先ほど〇〇委員がおっしゃったような多様な学習スタイル、新しい学び方の観点からすると、現在の学校のスペースではそれが実現できない状態になっているのであれば、新しい発想が必要になってくるかと思います。

将来を踏まえて、知恵を絞って原案を練ることが我々の使命と考えなくてはなりません。もう一段階この原案を小委員会に詰めてもらう必要があると思います。

校長のお立場からすれば、今ある施設で苦勞しながらお仕事をされているということですから、それは了としなければいけないところですが審議会の立場としては10年先を見据えたときに、学校がどういう空間であるのかを踏まえて大規模の課題をクリアしていくことが、これからの大規模校の対応になると思います。

この後も通学区域や地域協議についても、ご意見をいただき整理して次に反映させていくという進め方をさせていただきたいと思います。

【次第4 通学区域・地域協議について】

会 長 では次第の4の通学区域です。小委員会報告と併せて、資料の説明を事務局よりお願いします。

学校配置調整担当課長 まずは資料3をご覧ください。小委員会ではこれまでの議論に加えて小学校と中学校では考え方や優先順位、特に安全確保という視点の重要度が異なるのではないかという意見があり、その点を踏まえて各委員より意見をいただいております。前回の小委員会での議論を四角囲みの部分にまとめてございますが、主な意見等にも記載してあるように小学校と中学校の通学区域は整合性の実現に向けて中学校の方が通学距離を柔軟に考える。小学校と中学校の通学区域の整合性を図る場合には中学校の通学区域を変更して、小学校の通学区域に合わせる必要ではないかといった意見もありました。

続きまして資料5をご覧ください。通学区域につきましてはこれまで複数回にわたって議論がされておりますので、整理をしております。すべての意見が含まれている訳ではございませんが、その点ご了承いただければと思います。

1番の議論の方向性です。区の課題認識を踏まえて、学校や地域により通学区域の状況は様々であり一律の基準では検討できないが、通学区域の目的や検討時に考慮すべき視点の意義や役割を整理する必要があると議論され、教育環境の維持・向上を目的に子どもにとって何が望ましいかを第一に検討する必要があるということは審議会でも確認されているところです。

2番の検討時に考慮すべき各視点ですが、視点としては適正規模の実現、安全性・通学距離、小・中学校の通学区域の整合性、町会・自治会、支部区域との整合性、その他事項と整理しております。なおその他事項としましては青少年委員やPTA連合会、警察署の管轄などが挙げられております。

また、各視点をすべて叶える通学区域は現実的には困難なため、優先事項についても議論されているところでございます。前回小委員会において適正規模の実

現、安全性・通学距離、小・中学校の通学区域の整合性を基本事項とし、町会・自治会、支部区域との整合性、その他事項を配慮事項と整理されております。

適正規模の実現では、学校や地域への影響を考慮しながら長期的に小規模化や大規模化が見込まれる場合には通学区域の変更を検討すること、大規模集合住宅の建設に伴う影響は一時的なことが多く慎重に判断する必要があることなどが意見されております。

安全性・通学距離では、一概に通学距離では測れないこともあり、道路状況等を考慮して距離に関しては弾力的に考えるべきである。また、特に小学校では安全性の優先度は高くなることなどが意見されております。

小・中学校の通学区域の整合性では、小中一貫教育推進の観点から整合性が図れていることが望ましいこと、整合を図る場合には中学校の通学区域を変更した方がよいのではないかとといった意見もありました。

また、1校の小学校から複数の中学校に進学する状況、特に3校の中学校に進学する状況については進学状況を踏まえて整理することも必要ではないか、などご意見をいただいているところです。

町会・自治会、支部区域との整合性では学校と地域社会の関わりという観点から整合が図れていることで学校と地域の関係が密になり、円滑な学校運営や事業実施につながるといったご意見がありました。

一方、現状の学校位置がバランス良いわけではなく、整合性を図ることが困難な状況や時間とともに関係性が整理される部分もあるなど、関係機関の柔軟な調整が求められることも意見されたところです。

その他の視点として、青少年委員やPTA連合会、警察署管轄など整合を図れていた方が望ましいという意見もありました。

これまでの議論の整理を含めまして、事務局からの説明は以上です。

会 長 通学区域について改めて小委員会委員長より資料3の2の四角囲みの部分についてご説明をお願いいたします。

副 会 長 小委員会では協議を重ねて論点をまとめて、この四角の中のような形でまとまったと認識し、原案としてお示ししたところですが、もちろん原案にこだわるというよりも、本体である審議会で様々なご意見をいただいた上でブラッシュアップして進めていければと思います。

会 長 通学区域に関しては資料5の検討時に考慮すべき各視点の5つの視点をふまえたうえで様々な整合を図ることを目指すべきということですが、ご意見いかがでしょうか。

委 員 資料5はよくまとめられていると思います。現状、通学区域図を見ると整合性がないところがありますので、今後、小学校と中学校の通学区域を合わせる必要があると思います。

また、中学校に関しては各家庭で相談して行きたい中学校を選択できる制度があるので、小学校に合わせて通学区域の整合性をとっていくというこのまとめに対して賛成です。

会長 小学校と中学校の通学区域の整合性を図ることについて異論はないということですが、では現実問題として、各地域の特性やあり方を踏まえ検討する段階になると、その地域に住む方に配慮しながら検討を進めることができるのかという懸念が生じるかと思いますが、いかがでしょうか。

委員 会長の方から現実問題というお言葉をいただきましたが、資料5の検討時に考慮すべき各視点にあるとおり町会、自治会との整合を図るといっても町会、自治会の線を変えてもらうことは歴史もあり、現実的ではありません。

一方で小学校の通学区域を変更するかといっても、これも難しいと思います。そうであるならば町会、自治会と小学校の通学区域の線引きのズレ、つまり整合性が取れていないという前提で物事を進めないと、整合が取れていればいいという机上の空論で終わってしまうと思います。本審議会として、また行政側としての落としどころをどこにするのかを決められればと思います。

実際に小学校のイベントで声をかける町会、町会のイベントで声をかける小学校、中学校のイベントで声をかける小学校と中学校というように、重なっているバッファーの部分があります。そのバッファーの部分を是とするのか非とするのか、積極的はなのか消極的はなのかを曖昧にせず話し合っておく必要があると思います。

私は学校と魅力ある学校づくりに限らず、地域の文化や地域の住民が活性化していくうえでは、そのバッファーの部分にこそ魅力が発生して地域の特徴が出てくるので、その線のズレをむしろ認めたいと考えています。

会長 小委員会の中で今のご意見についてなにか議論はありましたか。

副会長 直接的な回答ではありませんが、小委員会での議論の論点と私自身の考えを含めてお話しします。

小学校と中学校の通学区域の整合性を図ることは、整合性を図ることが目的ではありません。つまり小学校と中学校が連携した教育を進めて、より質の高い教育を提供するというのが一番重要で、それに対して小学校と中学校の集合体としての特色と地域の特色や地域の目指すものがいかに融合していくかということが大事になると思います。

整合性だけとれていればいいという話ではなく、そのズレが存在すると認めるべきというのはそのとおりだと思います。各地域の目指すものと学校の目指すものは最終的には子どもの成長であり、方法論というか立場が違うため、前向きに取り組んでいくことが良いと思います。

板橋区では学校選択制があり、魅力のある学校を選択できるという部分で学校

力向上につながっており、規制緩和で学校選択制にすることは学校力向上には繋がらないと思っています。あくまでも整合性を図ったからおしまいという話ではなく、今後、教育委員会なりそれぞれの小中学校がお互いに連携し、子どもたちにとってよい教育、特色ある教育が展開していくことが一番大事だと思います。そういう中で地域に協力していただくなど様々なことがあると思います。

委員　　そうであれば、一度小学校区ごとに町会、自治会と通学区域のレイヤーをまとめてみるのはいかがでしょうか。例えば、赤塚地域は小学校区が大きくて町会も大きいですが、板橋地域はどちらも小さいというような地域ごとの特色をペーパーに落とししてみないと、板橋区外の審議会委員の議論は進まないのではないかと思います。

会長　　学校の立場からすると、非常に自己完結的に我が校を優先で考えざるを得ないかと思いますが、もっと学校間のネットワークで融通を利かせるべきだと思います。それをバッファと言うのか、幾つかの言葉があるかと思いますが現実的に境界線を引いてその中で完結的に進めようとしても非常に難しい部分があり、お互いに融通を利かせながらお互いを成り立たせるために、うまく受けとめ調整する必要があるという事例が通学区域であります。

小委員会のまとめを資料3の2の四角囲みの部分で提示しておりますが、今出た意見を踏まえつつ、今度進めていくということで、現段階についてはこのまとめで委員の皆さんからご了解いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(意見等なし)

会長　　続きまして、次の地域協議ということについて、お願いします。

学校配置調整担当課長　　地域協議に関する課題認識等を含めて小委員会報告をさせていただきます。

課題認識ですが、これまで教育委員会では学校統合を含む適正規模化などの検討に際して協議会を設置し、学校関係者及び保護者や町会・自治会をはじめとした地域との間で意見集約と合意形成を図ってまいりました。ただ、様々な内容がある中、地域協議には長時間を要しており地域の負担が大きくなっていることが課題であると認識しております。

また、区では令和2年度より区内全小・中学校にCS制度を導入しておりますので、引き続き多くの学校が改築期を迎える状況にあっては、協議内容によりCS委員会を活用し、必要に応じて地域関係者等への情報提供や意見交換に努めながら検討を進める必要があるとも認識しているところです。

このような状況を説明させていただき、小委員会では地域に係る負担の軽減につながるよう地域協議におけるCS委員会の役割や協議の進め方について議論が行われました。

それでは改めて資料3の3ページをご覧ください。四角囲みですが、教育委員

会ではこれまで適正規模化、適正配置の協議に際して協議会を設置し、学校関係者及び保護者や町会・自治会をはじめとした地域との間で意見集約と合意形成を図ってきており、引き続き保護者や地域での検討を重視すべきである。一方で適正規模化、適正配置が学校運営に与える影響は大きく、学校運営を共に担う組織であるCS委員会が果たす役割は大きい。今後の協議においてはCS委員会を活用するとともに、学校や地域の実状を勘案したうえで保護者代表や地域代表など学校に関わる様々な立場の方からの意見を集めながら協議を進めることが求められる。また、協議の過程において、必要に応じて教育委員会より対応可能な具体的方策を示すなど、協議に係る負担軽減を図ることが望ましい、としております。

小委員会ではCS委員会は委員構成など、学校により様々ですが学校運営に関わる立場として、適正規模化・適正配置に関しても役割を担っていること、学校とCS委員会の関わりという部分については小中学校、学校ごとでも違いがあるため、一定程度事務局で整理して学校と共有する必要があるのではないか、といったCS委員会自体の制度や運営に関するご意見としていただきました。

四角囲み後段、対応可能な具体的方策を示すにつきましては、協議の過程においてその意見等を踏まえて、実現可能性とともに整理し、協議の場へ示すことで学校や地域に係る負担軽減をめざした方が良いという趣旨であったと認識しております。

会 長 本件について小委員会委員長から補足があればお願いいたします。

副 会 長 小委員会では区の課題認識や状況を踏まえて議論を行いました。学校を取り巻く状況は各学校によって様々であるため、適正配置や教育的課題に対応するには保護者や地域関係者が問題意識を共有して検討を進める必要があります。

しかし、区では多くの学校が改築期を迎える状況にあっては地域の負担も懸念されるということもあり、その負担軽減に向けた取組・方向性をお示ししておりますので、これを審議会に諮るイメージで議論していただくことになるかと考えております。

ただ、誤解があって困るのはCS委員会を利用するというのではなく、CS委員会ではそれぞれ既に求められているものがありますので、その延長線上に協議会への参画があると認識していただきたいと思っております。

会 長 今の説明をもとにしながら意見をお願いします。

また、板橋区のCS委員会での設置率や発足からの経過と現状についてお聞かせください。

学校配置調整担当課長 板橋区のCS委員会につきましては、令和2年度より全校設置しています。本日、所管の課長が出席しておりますので、補足をお願いします。

地域教育力推進課長 CS委員会は現在、小中学校全校に設置しており全国の自治体の中でも進んで

おります。年5回会議を開催しております、それぞれの地域の特色に応じた活動がされております。

C S委員会は地域が主体ということもあり、地域の考えが根付くことも教育委員会として望んでいるところでございます。

会長 実際にこのC S委員を引き受けている委員の方からご意見、ご質問をお願いします。

委員 正直、一般の保護者は学校支援地域本部とC S委員会の違いをわかっていないという現状があると思います。

前野小学校のC S委員会は意識が高く熱い委員会を開催しているのですが、他の学校のC S委員会の活動はどうか知りません。小学校のC S委員会は非常に忙しいイメージがありますが、中学校の保護者にC S委員会の活動について聞いたところ、よくわからないという回答だったため、中学校は生徒主体の面が大きいかからなのか、詳細はわかりかねますがC S委員会が活発ではないのかもしれない。

先ほど〇〇委員がおっしゃっていた町内、自治会の特色の落とし込みについてですが、学びのエリア内の小学校のC S委員会と中学校のC S委員会がタイアップすることができればC S委員会がより機能してくるかと思えます。

また、各小中学校のC S委員会の取りまとめ役を例えば1人の校長が受け持つなどすることで、学びのエリア内の各小中学校のC S委員会の意見を共有しやすくなり、各地域の温度差が減ると思うので落とし込みはしなくても良いのではないかと思います。

また、やはり母校が無くなるのは嫌な気持ちがあり、統廃合の協議会では双方の思い入れでなかなか議論が進まないことについて、前々回の審議会で協議会を円滑に進めるため教育委員会がガイドラインを作成した方がいいのではないかと発言させていただきましたが、そもそも地域差がある中で何を基準にガイドラインを作ったらいいのかという思いに至り、そこで機能していくのがC S委員会ではないかなと思えました。

会長 小中学校のC S委員会を一緒にというのはどういう理解をしたらよろしいでしょうか。

委員 一緒にというのは例えば学びのエリアの上板橋第三中学校には前野小学校と上板橋第四小があり、この3校のC S委員会が毎回ではないにしても、時折一緒に情報交換をする機会があればいいということです。

各学校で素晴らしいことをやっていると思いますが、私たち保護者は他校を知らないで現状ある組織であるC S委員会を使いながら新しいことをやっていったほうが良いと思います。

会長 CS委員会を3つ作るのではなく1つでいいのではという意見に対してはいかがですか。

委員 前野小学校のCS委員をやっており、CS委員の役割としては学校の現状を把握し、どの方向性が望ましいのか熟議しています。

また、先生やCS委員や地域の方と連携をして、2週間に1回程度のペースで勉強が遅れがちな子どもを対象としたドブピー教室という補講授業を行っています。教員ではないので勉強を教えることはできませんが丸付けなどをしております。この取組はCS委員会で熟議したうえで行っていることであり、各学校でそれぞれ委員会の在り方がありますので、学びのエリアだから委員会を一つにしようというのではなく、先ほどの〇〇委員がおっしゃったように学びのエリアのCS委員会の代表者が集まり、子どもたちの学校生活について協議するという機会を設けるのはありだと思います。

委員 私は志村第四中学校、北前野小学校でCS委員を兼任していますが小学校と中学校では温度差があります。小学校は6年間あり行事が多数あることと、中学校では自主性を重んじる場所がありますので、その辺で温度差があります。

校長によって学校の校風や方向性が変わるように校長によってCS委員会の活動も変わってきます。

例えば、先ほどの学びのエリアについて志村第四中学校だと北前野小学校、志村小学校、緑小学校、志村坂下小学校がありますが、志村第四中学校のテスト期間を使って生徒が使用しない間の校庭を利用し、その4小学校のPTAや親父の会などがソフトボール大会や意見交換をすることがあります。

CS委員会は学校色が強いので学びのエリアを一つのCS委員会にまとめることは難しく、校長が小中のCS委員会で連携を取っていかうという方向性であれば、スムーズに流れていくのではないかと、小中のCS委員を兼任している立場からの意見です。

会長 このCS委員会は発足してまだ間もないため、これから成長していくと思えますし、現実に対応しながら変わっていくということも十分考えられます。

委員 各学校CS委員会があり、それぞれ地域ごとの異なる課題を議論しているとのことなので、他の学校のCS委員会がフォーカスして議論している項目や視点等が区全体でわかると、自身の地域の参考になる可能性もあります。遠隔の地域の別のCS委員会で、類似の問題を議論しているかもしれません。例えば1年に5回開催されているのであれば、議題・タイトルだけでも区全体で情報共有することが出来れば連携ができていくきっかけになるかもしれません。

地域教育力推進課長 各学校の取り組みは見えづらい部分があるのでiCSフォーラムにて情報を共有したり、特徴的な取り組みを発表したりする機会を設けております。CS委員

会間での情報共有は重要であると考えているため、今後も共有の機会を増やすなど検討していきたいと思っております。

委員 各学校のCS委員会が何にフォーカスして議論したのか、議題・タイトルだけでも共有することが出来れば、新たな連携体系や地域の負担が減るのではないかと思います。

委員 基本的にCS委員会を活用し、話を進めること自体はよい考え方だと思いますが、CS委員会の委員構成がそれぞれ違うと思いますので、そこに委ねるのであれば例えば少し町に強い人を当該CS委員会の委員に加えるなどすることでより円滑になると思います。

委員 例えば大規模化のピーク対応期間が、横浜市が苦勞されているように10年ではなく15年かかるのか、非常に難しい判断ですが、一時的な大規模化対応と将来的な人口減少対応がセットだと思います。

大規模化のピークが数年後に予測されている場合、少人数やグループ活動など新しい学習スタイル展開のために計画したスペースをクラス数変化のバッファとしてクラス増対応に使う方法は避けるべきだと思います。児童生徒数ピークの時に、新しい学習スタイル展開が不可能となるからです。一方で、学校建築は50年、100年もつ建物なので、20年後、30年後には余裕教室だらけになる可能性も難しい問題です。

例えば、学校側と地域施設側（複合化部分）のセキュリティラインを少しずつずらす方法が考えられます。20年後、30年後には学校部分をコンパクトにまとめ、1フロアを地域に開放したり地域施設に転用する、或いは、減築できる部分を予想しておくなど、改築の際にはあらかじめ将来像も計画に盛り込む視点を入れることを提案します。

会長 CS委員会のこれからを見守りつつということで小委員会のまとめを審議会として、了解いただけますでしょうか。

(意見等なし)

会長 先ほど申しあげましたように大規模化対応については今のアイデア等も踏まえ、もう少し議論した方がいいと思います。

地域協議については小学校と中学校のCS委員会がそれぞれ自己完結的な扱いのままでいいのかということも一つの視点になります。次回以降、当初のスケジュールに沿って小中一貫型学校についても検討を進めていきたいと考えております。この件につきまして、小委員会の方で整理や議論をお願いしたいと思います。

それでは事務局より、日程の連絡等をお願いしたいと思います。

学校配置調整担当課長　本日いただきました通学区域と地域の特性という部分については、改めて機を捉えて議論の場をご提供させていただければと思います。

最後に次回審議会の日程を確認いたします。第6回審議会は令和5年2月8日水曜日、15時から開催する予定でございます。場所につきまして本日と同じくここ、災害対策室を予定しております。審議会、小委員会とも改めて開催通知を送付いたしますので、そちらをご確認いただきますようお願いいたします。

会　　長　　それでは本日の審議会はここまでとさせていただきます。どうもありがとうございました。

《閉会》